

平成28年12月7日

日本遺産大使任命証交付式について

11月4日に御就任いただいた「日本遺産大使」に対し、12月14日（水）16時から、以下のとおり任命証交付式を行います。

○ 日本遺産大使任命証交付式

日時：平成28年12月14日（水）16時から

場所：中央合同庁舎7号館（文部科学省）記者会見室

出席予定大使：

武井 咲 大使

マーティ・フリードマン 大使

三國 清三 大使

村田 吉弘 大使

中村 時蔵 大使

詳しくは、以下の資料を参照願います。

別紙1 日本遺産大使一覧

別紙2 日本遺産大使略歴

別紙3 日本遺産大使について

別紙4 日本遺産（Japan Heritage）について

別紙5 日本遺産認定一覧

<担当> 文化庁文化財部記念物課

課長	大西 啓介（内線 2873）
課長補佐	田中 康成（内線 3101）
専門官	中村 崇志（内線 2874）
企画調整係	吉田 尊徳（内線 4768）
	宮本 隆行（内線 4768）
	川口 武彦（内線 4768）

電話：03-5253-4111（代表）

03-6734-4760（直通）

日本遺産事務局（有限会社インターテイク）

有限会社インターテイク 吉原、神成

〒108-0073 東京都港区三田 5-8-8-405

電 話 03-3454-1500

携 帯 090-3109-2704 吉原

E-mail tvv@tvv.jp

日本遺産大使一覧

武井咲	女優
きゃりーぱみゅぱみゅ	モデル・アーティスト・歌手
松井秀喜	元プロ野球選手(ニューヨークヤン キースGM特別アドバイザー)
マーティ・フリードマン	ギタリスト
三國清三	料理人(オテル・ドゥ・ミクニ、 オーナーシェフ)
村田吉弘	料理人(菊乃井主人)
中村時蔵	歌舞伎役者(五代目中村時蔵)

日本遺産大使略歴

○ 武 井 咲（たけい えみ）

＜御略歴＞



1993 年愛知県生まれ。2006 年「『第 11 回全日本国民的美少女コンテスト』モデル部門賞／マルチメディア賞」をダブル受賞。2006 年よりモデルとして活躍。2010 年には「第 39 回ベストドレッサー賞」＜芸能部門＞を受賞。テレビ・映画に多数出演しており、2013 年に「愛と誠」、「るろうに剣心」、「今日、恋を始めます」で「『第 36 回日本アカデミー賞』新人俳優賞」を受賞。主な出演作品として、「アスコマーチ～明日香工業高校物語」、「平 清盛」、「戦力外捜査官」、「せいせいするほど、愛してる」、「忠臣蔵の恋～四十八人目の忠臣～」などがある。CMにも多数出演。旅に関する仕事も行っている。

○ きゃりーぱみゅぱみゅ

＜御略歴＞



1993 年東京都生まれ。2011 年にミニアルバム「もしもし原宿」でメジャーデビュー。2012 年に発売した初のフルアルバム「ぱみゅぱみゅレボリューション」は、オリコンデイリーチャート初登場 1 位、さらに iTunes でも日本総合チャートや世界各国のエレクトロチャートで 1 位を獲得。その後、自身初となる全国ツアー、日本武道館単独公演、NHK 紅白歌合戦初出場と快進撃を続ける。2013 年には、初めてのワールドツアー（8 つの国と地域、13 都市）を大成功させる。2014 年、2 度目となるワールドツアー（11 の国と地域、15 都市）も大成功で終え、サードアルバム「ピカピカふぁんたじん」は、北南米、欧州、オセアニア、アジア圏など世界 4 大陸、15 ヶ国（地域）で同時発売。2016 年は、自身初となるベストアルバム「KPP BEST」の発売や、3 度目のワールドツアーの開催など、様々な企画を展開中。そのかわいい容姿からは想像がつかないほど自由奔放で、オリジナリティ溢れる表現でファンを魅了し続けている。アーティスト活動とファッション面での活動を掛け合わせた、『HARAJUKU』のアイコンとしての存在が、全世界から注目を集める。

○ 松 井 秀 喜（まつい ひでき）

<御略歴>



1974 年石川県生まれ。1990 年に星稜高校に入学し、野球部に入部。春夏通算 4 回甲子園に出場する。1992 年の第 64 回選抜甲子園大会で 3 本塁打をはなち、「ゴジラ」のニックネームを拝命し、第 74 回全国高校野球選手権大会では、5 打席連続敬遠を経験する。同年、巨人軍に入団。日本プロ野球で活躍後、2003 年、ヤンキースに入団。その年にワールドシリーズへの出場を果たす。2005 年には、デビューからの連続試合出場が 425 試合となりメジャーリーグ記録を更新し、以後、日米通算 1768 試合連続出場を果たす。2007 年には、日米通算 2000 本安打、2008 年には、長嶋茂雄に並ぶ、日米通算 444 本塁打を達成する。2009 年には、ワールドシリーズ優勝を経験し、同シリーズで日本人選手初の最優秀選手（MVP）を獲得する。シーズン終了後、フリーエージェントでエンゼルスと契約する。その後、アスレックス、タンパベイレイズを経て 2012 年に現役を引退する。2013 年には、恩師・長嶋茂雄元巨人軍監督とともに、国民栄誉賞を受賞する。2014 年以降は、ヤンキース GM 特別アドバイザーとして若手選手の育成に努めている。

○ マーティ・フリードマン

<御略歴>



アメリカ ワシントン D. C. 生まれ。「CACOPHONY」等のバンド活動を経て、1990 年「MEGADETH」加入。全世界で 1300 万枚以上のアルバムセールスを誇るメガバンドへと導き、世界中に熱狂的なファンを持つスーパー・ギタリストとなる。「MEGADETH」のツアーで来日を重ねるうち日本フリークに。日本語を独学し、アリゾナ州立大学の日本語弁論大会で 2 位の経歴を持つ。

「MEGADETH」脱退後、2004 年、活動拠点をアメリカから日本・東京へ。2005 年～伝説のロックバラエティー番組「ヘビメタさん」（テレ東）にメイン MC としてレギュラー出演。国内のヘビメタルファンだけではなく YouTube を通じて世界のヘビメタルファンを驚愕させる。続編「ROCK FUJIYAMA」は、世界各国で反響を呼ぶ。「文化庁国際文化フェスティバル東アジア共生会議 2013」で日本の音楽の魅力を紹介する等、現在は、音楽業界だけに留まらず、マルチ・アーティストとして活動している。

○ 三 國 清 三（みくに きよみ）

<御略歴>



1954 年北海道増毛町生まれ。15 歳で料理人を志し、札幌グランドホテル、帝国ホテルにて修業。1974 年駐スイス日本大使館の料理長に就任。大使館勤務の傍ら、フレディ・ジラルデ氏に師事する。その後も、トロワグロ、オーベルジュ・ドウ・リル、ロアジス、アラン・シャペル等の三つ星レストランで修業を重ねる。1985 年東京・四ツ谷にオテル・ドウ・ミクニをオープン。1999 年料理人の育成や子どもの味覚教育等に取り組む組織、日本フランス料理技術組合を発足。2007 年厚生労働省より卓越した技能者「現代の名工」として表彰される。2011 年フランスヴェルサイユ宮殿にて、フランス料理がユネスコ世界無形文化遺産へ登録されたことを祝したガラ・ディナー「世紀の晩餐会」が開催され、料理をサポートするグランシェフの日本代表として参加。2013 年フランスの食文化への功績が認められフランソワ・ラブレー大学にて名誉博士号を授与される。2015 年フランス共和国よりレジオン・ドヌール勲章シュバリエを受勲。この勲章はナポレオン・ボナパルトにより 1802 年に創設されたフランスの最高勲章で、日本の料理人へは初めての授与。現在、子供の食育活動や、復興支援活動「子どもたちに笑顔を！」笑顔プロジェクトを継続している。

○ 村 田 吉 弘（むらた よしひろ）

<御略歴>



京都（祇園の老舗料亭「菊乃井」）生まれ。立命館大学在学中、フランス料理修行のため渡仏。大学卒業後、名古屋の料亭「加茂免」で修行を積む。1993 年「株式会社菊の井代表取締役」に就任。1976 年、「菊乃井木屋町店」を開店。2004 年「赤坂菊乃井」を開店。自身のライフワークとして、「日本料理を正しく世界に発信する」「公利のために料理を作る」。また「機内食」（シンガポールエアライン）や「食育活動」医療機関や学校訪問・講師活動を通じて、「食の弱者」という問題を提起し解決策を図る活動も行う。2012 年「現代の名工」「京都府産業功労者」、2013 年「京都府文化功労賞」、2014 年「地域文化功労者（芸術文化）」を受賞。

○ 五代目 中 村 時 蔵（なかむら ときぞう）

<御略歴>



1955 年東京生まれ。上品でおっとりとした古風さを漂わせる正統派の女形。父（四世時蔵）譲りの美貌と、役の品格を守った緻密な芸で幅広い人気を得ている。幼くして祖父（三世時蔵）、父の後ろ盾を亡くし、孤軍奮闘を重ねてきた一方、家にとらわれることなく諸先輩からの教えを確実に自分のものにしてきた。また、早くから団十郎や菊五郎、幸四郎、仁左衛門、吉右衛門らといった先輩たちの相手役を数多く勤めてきたこともプラスになっている。祖父三世時蔵が得意とした片はずしの役を目標にしながら、現在は、初役、当たり役を含め、娘、傾城、女房など年間 10 から 15 もの役々を幅広く確実にこなしている。尊敬する大先輩、故中村歌右衛門丈の指導を仰ぐ機会にも恵まれ、なかでも国立劇場「鏡山旧錦絵」の尾上では見事に形の継承がなされたと絶賛を受けた。本人も立女形を意識し、日々研鑽を重ねながら近年は悪女、老役と芸域を広げ歌舞伎界においてなくてはならない地位を確立している。

日本遺産大使について

著名人を「日本遺産大使」に任命することにより、文化庁が日本遺産を国内外に広く広報するにあたって協力いただき、日本遺産を浸透させるものである。

1. 活動内容

- 文化庁が行う「日本遺産」の広報媒体への出演
- 「日本遺産」の各種イベント等への参加
- 既存の番組出演時における「日本遺産大使」の告知
- 自身のブログ、HP、SNS等における「日本遺産大使」の告知
- ユニフォームへの日本遺産のロゴ、服への日本遺産バッジ等の着用
(上記の内、就任者が対応可能な活動を行う。)

2. 活動期間

平成28年11月4日～平成33年3月31日

「日本遺産 (Japan Heritage)」について

地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産 (Japan Heritage)」に認定するとともに、ストーリーを語る上で不可欠な魅力ある有形・無形の文化財群を地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内外に戦略的に発信することにより、地域の活性化を図る。2020 年度までに 100 件程度の認定を行う。

1. 認定対象

- 日本遺産は、以下の点を踏まえたストーリーを認定する（文化財そのものが認定の対象となるわけではない）。
 - ・ 歴史的経緯や、地域の風土に根ざし世代を超えて受け継がれている伝承、風習等を踏まえたストーリーであること。
 - ・ ストーリーの中核には、地域の魅力として発信する明確なテーマを設定の上、建造物や遺跡・名勝地、祭りなど、地域に根ざして継承・保存がなされている文化財にまつわるものが据えられていること。
 - ・ 単に地域の歴史や文化財の価値を解説するだけのものにならないこと。
- ストーリーのタイプとしては2種類
 - ・ 「地域型」…単一の市町村内でストーリーが完結。
 - ・ 「シリアル型（ネットワーク型）」…複数の市町村にまたがってストーリーが展開（複数の市町村に下記「ストーリーの構成文化財」が所在）。

2. ストーリーを語る上で不可欠な文化財群（ストーリーの構成文化財）

- 地域の魅力ある有形・無形の文化財群の一覧を作成するものとする。
- 構成文化財は、地域に受け継がれている有形・無形のあらゆる文化財を対象とし、地方指定や未指定の文化財も可能とする。
- 日本遺産のストーリーが我が国の文化・伝統を語るものであることから、文化財群の中に国指定・選定のものを必ず一つは含めることとする。

3. 認定申請の手続き

(1) 申請者

- 日本遺産の申請者は市町村とし、文化庁への申請は都道府県教育委員会を経由して行う。
- シリアル型の場合、原則として市町村の連盟とするが、当該市町村が同一都道府県内に所在する場合は当該都道府県が申請者となることも可能。

(2) 認定申請を行うに当たっての条件

- 認定申請を行うことができるのは、歴史文化基本構想又は歴史的風致維持向上計画を策定済みの市町村、若しくは世界文化遺産一覧表記載案件又は世界文化遺産暫定一覧表記載・候補案件を有する市町村とする。
- 地域型の申請の場合は上記の条件が必須であるが、シリアル型の申請の場合は満たすことが望ましい。

(3) 認定の可否

- 認定可否は、文化庁に設置する外部有識者で構成される「日本遺産審査委員会」の審査結果を踏まえて、文化庁が決定する。

(4) 認定基準

- ストーリーの内容が、当該地域の際立った歴史的特徴・特色を示すものであるとともに我が国の魅力を十分に伝えるものとなっていること。
※ストーリーについては、以下の観点から総合的に判断する。
 - ・興味深さ（人々が関心を持ったり惹きつけられたりする内容となっているか。）
 - ・斬新さ（あまり知られていなかった点や隠れた魅力を打ち出しているか。）
 - ・訴求力（専門的な知識がなくても理解しやすい内容となっているか。）
 - ・希少性（他の地域ではあまり見られない稀有な点があるか。）
 - ・地域性（地域特有の文化が現れているか。）
- 日本遺産という資源を活かした地域づくりについての将来像（ビジョン）と、実現に向けた具体的な方策が適切に示されていること。
- ストーリーの国内外への戦略的・効果的な発信など、日本遺産を通じた地域活性化の推進が可能となる体制が整備されていること。

日本遺産 (Japan Heritage) 認定一覧

No	都道府県	申請者 (◎は代表自治体)	ストーリーのタイトル
1	茨城県・栃木県・ 岡山県・大分県	◎水戸市(茨城県)・足利市(栃木 県)・備前市(岡山県)・日田市(大分 県)	近世日本の教育遺産群 ―学ぶ心・礼節の本源―
2	群馬県	◎群馬県 (桐生市, 甘楽町, 中之条町, 片品 村)	かかあ天下ーぐんまの絹物語ー
3	富山県	高岡市	加賀前田家ゆかりの町民文化が花咲くまち高岡 ―人、技、心―
4	石川県	◎石川県 (七尾市, 輪島市, 珠洲市, 志賀町, 穴水町, 能登町)	灯(あか)り舞う半島 能登 ～熱狂のキリコ祭り～
5	福井県	◎福井県 (小浜市, 若狭町)	海と都をつなぐ若狭の往来文化遺産群 ～御食国(みけつくに)若狭と鯖街道～
6	岐阜県	岐阜市	「信長公のおもてなし」が息づく戦国城下町・岐阜
7	三重県	明和町	祈る皇女斎王のみやこ 斎宮
8	滋賀県	◎滋賀県 (大津市, 彦根市, 近江八幡市, 高島 市, 東近江市, 米原市)	琵琶湖とその水辺景観ー祈りと暮らしの水遺産
9	京都府	◎京都府 (宇治市, 城陽市, 八幡市, 京田辺 市, 木津川市, 宇治田原町, 和束 町, 南山城村)	日本茶800年の歴史散歩
10	兵庫県	篠山市	丹波篠山 デカンショ節 ―民謡に乗せて歌い継ぐふるさとの記憶
11	奈良県	◎明日香村・橿原市・高取町	「日本国創成のときー飛鳥を翔(かけ)た女性たちー」
12	鳥取県	三朝町	六根清浄と六感治癒の地 ～日本一危ない国宝鑑賞と世界屈指のラド ン泉～
13	島根県	津和野町	津和野今昔～百景図を歩く～
14	広島県	尾道市	尾道水道が紡いだ中世からの箱庭的都市
15	愛媛県・高知県・ 徳島県・香川県	◎愛媛県・高知県・徳島県・香川県 (各県内57市町村)	「四国遍路」～回遊型巡礼路と独自の巡礼文化～
16	福岡県	太宰府市	古代日本の「西の都」～東アジアとの交流拠点～
17	長崎県	◎長崎県 (対馬市, 壱岐市, 五島市, 新上五島 町)	国境の島 壱岐・対馬・五島 ～古代からの架け橋～
18	熊本県	◎人吉市・錦町・あさぎり町・多良木 町・湯前町・水上村・相良村・五木村・ 山江村・球磨村	相良700年が生んだ保守と進取の文化 ～日本でもっとも豊かな隠れ 里 ―人吉球磨～

19	宮城県	◎宮城県 (仙台市, 塩竈市, 多賀城市, 松島町)	政宗が育んだ“伊達”な文化
20	山形県	◎山形県 (鶴岡市, 西川町, 庄内町)	自然と信仰が息づく『生まれかわりの旅』～樹齢300年を超える杉並木につつまれた2,446段の石段から始まる出羽三山～
21	福島県	◎会津若松市・喜多方市・南会津町・下郷町・檜枝岐村・只見町・北塩原村・西会津町・磐梯町・猪苗代町・会津坂下町・湯川村・柳津町・会津美里町・三島町・金山町・昭和村	会津の三十三観音めぐり～巡礼を通して観た往時の会津の文化～
22	福島県	◎郡山市・猪苗代町	未来を拓いた「一本の水路」―大久保利通“最期の夢”と開拓者の軌跡 郡山・猪苗代―
23	千葉県	◎千葉県 (佐倉市, 成田市, 香取市, 銚子市)	「北総四都市江戸紀行・江戸を感じる北総の町並み」―佐倉・成田・佐原・銚子:百万都市江戸を支えた江戸近郊の四つの代表的町並み群―
24	神奈川県	伊勢原市	江戸庶民の信仰と行楽の地～巨大な木太刀を担いで「大山詣り」～
25	神奈川県	鎌倉市	「いざ、鎌倉」～歴史と文化が描くモザイク画のまちへ～
26	新潟県	◎三条市・新潟市・長岡市・十日町市・津南町	「なんだ、コレは！」 信濃川流域の火焰型土器と雪国の文化
27	石川県	小松市	『珠玉と歩む物語』小松～時の流れの中で磨き上げた石の文化～
28	長野県	◎南木曽町・大桑村・上松町・木曽町・木祖村・王滝村・塩尻市	木曽路はすべて山の中～山を守り 山に生きる～
29	岐阜県	高山市	飛騨匠の技・こころ ―木とともに、今に引き継ぐ1300年―
30	兵庫県	◎淡路市・洲本市・南あわじ市	『古事記』の冒頭を飾る「国生みの島・淡路」～古代国家を支えた海人の営み～
31	奈良県	◎吉野町・下市町・黒滝村・天川村・下北山村・上北山村・川上村・東吉野村	森に生まれ、森を育んだ人々の暮らしとこころ～美林連なる造林発祥の地“吉野”～
32	和歌山県	◎和歌山県 (新宮市, 那智勝浦町, 太地町, 串本町)	鯨とともに生きる
33	鳥取県	◎大山町・伯耆町・江府町・米子市	地蔵信仰が育んだ日本最大の大山牛馬市
34	島根県	◎雲南市・安来市・奥出雲町	出雲國たたら風土記～鉄づくり千年が生んだ物語～
35	広島県・神奈川県・長崎県・京都府	◎呉市(広島県)・横須賀市(神奈川県)・佐世保市(長崎県)・舞鶴市(京都府)	鎮守府 横須賀・呉・佐世保・舞鶴～日本近代化の躍動を体感できるまち～
36	愛媛県・広島県	◎今治市(愛媛県)・尾道市(広島県)	“日本最大の海賊”の本拠地:芸予諸島―よみがえる村上海賊“Murakami KAIZOKU”の記憶―
37	佐賀県・長崎県	◎佐賀県 (唐津市, 伊万里市, 武雄市, 嬉野市, 有田町) 長崎県 (佐世保市, 平戸市, 波佐見町)	日本磁器のふるさと 肥前～百花繚乱のやきもの散歩～

※ 1～18は平成27年度認定、19～37は平成28年度認定